

産業生活常任委員会

(令和2年10月26日)

○ 三木 隆委員長

それでは、皆さん、こんにちは。

それでは、産業生活常任委員会を開会いたしますので、事務局はインターネット中継を開始してください。

本日は、休会中の所管事務調査として、新型コロナウイルス感染症が企業に与えている影響や商工会議所の今後の取組について、四日市商工会議所様と意見交換を行いたいと思います。

まず、ご多忙中のところご出席いただいております四日市商工会議所、須藤専務理事よりご挨拶をお願いいたします。

○ 須藤四日市商工会議所専務理事

四日市商工会議所の専務理事の須藤でございます。

日頃は、市議会の皆様には地域の産業振興、ご尽力いただいておりますこと、まずお礼申し上げます。また、今般はこのような意見交換の場を設けていただき、大変ありがたく思っておりますでございます。

新型コロナウイルス感染症の課題、大変地域にとっても大きな課題となっておりますところでございます。当所といたしましても、様々な取組を懸命に取り組んでおるようなところでございますが、市行政においてもいろんな施策、支援策を執行していただいておりますところ、重ねて感謝申し上げますところでございます。

本日は、地域の実情につきまして、少し私どもで把握しておる部分についてご報告させていただくということでございます。

本日は、当所の理事兼事務局長の山下、中小企業相談所長の井田、商工振興部長の秋田、経営支援課長の川谷、このメンバーで来させていただいておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。ありがとうございます。

○ 三木 隆委員長

ありがとうございました。

本日のスケジュールとしましては、四日市商工会議所様から3点、1番目に新型コロナ

ウイルス感染症が企業に与えている影響について、2番目として、コロナ禍における商工会議所の支援について、3番目として、商工会議所の今後の取組についての3点についてのご説明をいただき、その後、意見交換に入らせていただきたいと思いますと考えております。

なお、本日、諸岡委員は体調不良のため欠席と、日置委員は若干遅れてくるということの連絡を受けていますので、よろしく申し上げます。

それでは、説明をよろしくお願ひいたします。

## ○ 井田四日市商工会議所商工振興部長

四日市商工会議所、商工振興部長の井田でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。

私のほうから、特に1番目の新型コロナウイルス感染症が企業に与える影響について、そして2番目の、コロナ禍における商工会議所の支援について、この2点を中心にご報告をさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

それでは、早速でございます。資料1番をご覧くださいませよう、よろしくお願ひいたします。

こちらの資料でございますが、三重の景況調査と申しまして、県下12の商工会議所が合同で年2回、1月と7月でございますが、この2回の調査のところの四日市の部分のほうを抜粋した資料でございます。景況感をD I 値で調査をさせていただいております。

D I 値でございますけれども、資料1の下段のほうに少し補足として入れさせていただいております。景気動向を示す指標で、調査時点の企業の経済動向を知るものでございます。増加、好転とする企業の割合から減少、悪化したとする企業の割合を差し引いた値で示されております。マイナスが大きくなるほど企業の景況感が悪いことを示すと、そういうような調査でございます。

今回の調査は7月に開催をさせていただいたんですけれども、対象事業者が2344事業所でございます。回答数が659事業所ということで、回答率が28.1%でございます。

現状の調査の報告でございますが、令和2年1月から6月の業況は、よい、ややよいが9.4%、やや悪い、悪いが70.2%となり、D I 値はマイナスの60.8%でございます。前期がマイナス23.1%でございますので、前期調査に比べて37.7ポイント悪化するというような結果でございました。

各業種のD I 値はご覧のとおりでございますが、全ての業種で悪化しているというよう

な結果というところがございます。

続いて、見通しについてご報告をさせていただきます。

今後の見通しについては、よい、ややよいの回答が5.8ポイント、やや悪い、悪いとの回答が64.5%で、D I 値がマイナスの58.7%となっております。

現況のD I 値が先ほどご報告させていただいたとおり60.8%と比較すると、2.1ポイントの業況の改善を見通しております。

夏以降、コロナ禍が収束し景気が回復すると期待した事業者さんが多い結果というところだと思います。

業種別には、製造業、建設業、卸売業、飲食業、交通運輸業がそれぞれ改善を見通す一方で、小売業、サービス業、その他の業種に悪化が目立つと、そのような結果でございます。

次のページをご覧くださいませよう、よろしくお願いいたします。

次は、目立った変化等というところで、まず一つ目は経営課題でございます。

経営上困っている問題については、売上・受注の停滞減少が最も多く、60.5%でございました。次いで人手不足、人材育成と、それぞれ上位を占めているというところがございます。飲食業の売上・受注の停滞減少については、他の業種を比較して最も深刻になっているというような状況でございました。

次に、設備投資についても調査をさせていただいております。

設備投資については、前期と比較して5.2ポイント減少しております。

業種別では、前期と比較して飲食店が8.5ポイント増加した一方で、製造業、建設業、卸売業、サービス業、交通運輸業がそれぞれ減少したというような結果でございます。

次に、資料2をよろしくお願いいたします。

こちらは、先ほどの三重の景況調査と同時期に、当所のほうで景況調査に付け加えて特別に当所だけのオリジナルで調査をさせていただいたものでございます。

一つ目が、2020年3月から5月の売上げは前年同期分と比較してどのように売上げが変動したかという問いと、それから二つ目に、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて経営で困っている問題点は何ですか、この2点についてお聞きしております。回答数は、先ほどの三重の景況調査と同じく659社でございました。

まず、前年同期と比べて、3月から5月の売上げがどのくらい減少したかというところでございますが、売上げが減少したという割合が全部で72.2%でございました。それぞれ

減少幅につきましては円グラフのとおりでございますので、ご確認をお願いいたします。

二つ目の経営上困っている問題でございますが、やはり断トツで売上げの減少というのが34.2%と、多くの事業者様がこの売上げ減少で困っているというような結果でございます。

次のページをご覧ください。

まず、前年度同期と比較して売上げが変動したかというのをそれぞれ業種別に分けた資料でございます。その他の業種を除き、60%以上の企業が売上げが減少しているというふうに回答しております。特に飲食業、卸売業、小売業は、80%を超える企業が売上げが減少しているというふうに回答をしております。

それぞれの売上げ減少の割合につきましては、また、資料のほうご確認いただければと思いますので、よろしくをお願いいたします。

次の資料でございます。こちらにも新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて経営上困っている問題点は何ですかというのをそれぞれ業種別に分けた資料でございます。

全ての業種で売上の減少が1位というところでございます。また、製造業、卸売業は、展示会・商談の延期・中止が第2位、建設業や製造業では営業日数の減少を問題点としている企業が多い。小売業、飲食店、サービス業は、客数の減少を問題としている企業が多いというような結果となっております。

次のページをご覧ください。資料3でございます。

ちょうど7ページ目でございますね。こちらは、今現在、当所のほうでつかんでいるそれぞれの事業者さんの課題について、コロナ禍の影響について、業種別に少し分けさせていただいたものでございます。

例えば1番の製造業でございますが、特に5月の連休明けから受注が減少し、6月からは大幅に影響が出ている。今後、7月以降はさらに減少することが予想されとか、二つ目の製造業でございますが、緊急事態宣言により人の流れが止まったことで、飲食店でのお茶の消費量が減少した。問屋の販売は、小売の末端価格の10分の1から5分の1程度しか取引してもらえず、売上げの減少傾向に歯止めがかからない状況であるというような問題だとか。次のページの4番目の不動産仲介業でございますと、コロナウイルスの影響を最も受けたのは今年の2月から4月取引分であると。コロナウイルスの影響でメインの売上げの仲介取引がなくなったことで売上げがほぼなくなったとか。9ページ目の9番目の飲食業では、新型コロナウイルス感染症拡大予防のための緊急事態宣言発令による外出自

肅の要請で客足が減少し、4月の売上げは前年同月の半額以下に減少したと。7月頃からは県内での新型コロナウイルスの感染再拡大により、再び客足が遠のき始めた。夜の接待の場は減り、アルコールを提供する機会も減少し、売上げに直結しているとか。様々な問題点がうちのほうに寄せられております。また、いろいろとご確認をいただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

次に、15ページ目の資料4をご覧くださいませよう、よろしくお願いいたします。

このようなコロナ禍において、国または三重県から様々な補助金が出ております。上期は本当にたくさんの補助金が出ておりまして、この補助金は大体小規模事業者が対象で、また事業者様の事業計画の策定が申請に必要になっておりますので、上期はこの事業計画の策定に我々重点を置いてご支援をさせていただきました。

まず、一つ目でございます。小規模事業者持続化補助金の一般型、こちらは、国の補助金でございます。

対象ですけれども、小規模事業者の方が対象でございます。経営計画を策定し、その計画に沿って行う販路開拓の取組費用の3分の2、上限50万円でございますが、こちらを補助するものというものでございます。

今現在、3次受付まで終了しております。3次受付までの総申請者数が114者でございます。採択結果は2月まで発表されておりますので、2月受付までの採択者数は、79者申請したうちの69者が採択をされております。採択率は87.3%になります。

今後、第4次受付といたしまして、令和3年2月5日に第4次受付の締切りが予定されておりますので、当所といたしましては、12月上旬から中旬にかけて、専門家による事業計画の策定セミナー、1月中旬に5日間、専門家による個別相談会を通じてご支援をさせていただきたいというふうに考えておるところでございます。

2番目、こちら小規模事業者持続化補助金のコロナ特別対応型というものでございます。

コロナ禍において特別に出された補助金でございます。新型コロナウイルス感染症が事業環境に与える影響を乗り越えるために、サプライチェーンの毀損への対応や非対面ビジネスモデルの転換等、具体的な対応策に取り組む小規模事業者が経営計画を策定して、その計画に沿って取り組む費用の3分の2、または4分の3、上限100万円でございますが、こちらを補助するものというような補助金でございます。

次のページをご覧ください。

現在の状況でございますが、こちらは4次受付まで終了をしております。4次受付までの総申請者数は198者でございます。採択も第2期まで採択が決まっております。70者分の47者で、採択率が67.1%でございます。

今後の受付期日につきましては、第4時受付が12月10日締切りと決まっておりますので、当所の支援といたしましては、11月20日から27日に、これも専門家の個別相談会を通じてご支援をさせていただくというところでございます。

三つ目でございますが、これは県の補助金でございます。三重県経営向上支援新型コロナ危機対応補助金というものでございます。こちらの対象は、小規模事業者と中小企業も対象となっております。

制度の概要といたしましては、新型コロナウイルスの感染症の発生で業況が悪化し、経営の維持向上に支障を来している中小企業、小規模企業が販路開拓や生産性向上を目指して計画を策定し取り組む費用を補助するものということで、補助上限がステップ2で50万円、ステップ3で100万円というような補助金でございます。

こちらは3次受付まで全て終了しておりますして、結果といたしましては、延べ209者の事業者様が申請し、採択者数が94者というところで、採択率が44.9%でございます。

次に4番目でございますが、ものづくり・商業・サービス生産性向上促進補助金というものでございます。

こちらは、設備投資を行って取り組む革新的なサービスや生産性プロセスの改善を行うための費用を補助するものということでございます。

こちらにつきましても、3次受付まで現在終了しております。3次受付までの申請数が合計で8者、採択者が6者ということで、採択率が75%でございます。

ここまでの補助金の申請者数、延べで529者でございます。実数でいくと419者の事業者様がそれぞれ申請をされています。採択者数でございますが、実数で305者分の183者が採択をされておりますので、実に183者の事業者様が何かしらの事業計画を作っていただいて、その事業計画に沿って、今現在コロナ禍で様々な売上げの増加を目指して活動されているというところでございます。

次に5番目でございますが、雇用調整助成金でございます。

これも春先に手続きが煩雑だとかいろいろな理由でなかなか利用ができなかったという方が多うございますものですから、三重労働局と連携し、説明会及び個別相談会を実施しております。

説明会につきましては、5月29日から3日間、個別相談会につきましては、6月2日から4日間、それぞれ開催をさせていただいております。

次に、資料5をご覧くださいませよう、よろしくお願いいたします。

こちらは、10月9日に開催をされました当所の中小・小規模企業委員会の資料をそのままお持ちさせていただいたものでございます。

この中小企業委員会、主な審議事項といたしまして、1番の販路開拓に関することから、6番のその他、中小・小規模企業の支援に関するところ、こちらのテーマで商工会議所の方向性を決定いただく委員会でございます。特にこのコロナ禍において、六つの審議事項から特に重点的に行う事項ということを決めていただきました。

まず一つ目は、何といたしても販路開拓に関するところでございます。

今後の取組といたしまして、展示会、商談会を活用した販路開拓の支援であるとかITの積極的な利活用の支援、また、次のページでございますが、展示会情報等、当所の情報提供の充実と積極的な発信などをしていくよう、決定をいただいております。

二つ目でございますが、企業の防災減災に関するところでございます。

令和元年に施行された中小企業強靱化法に伴い、当初は四日市市さんとともに小規模事業者の自然災害に対する事前事後の備えに関する計画策定を支援しておりますが、今後の取組といたしましては、パンデミックを含む企業の防災減災に取り組む企業への支援として、具体的には、例えばパンデミックを含む災害に対して、事業を継続するために必要な講習会等を開催するというふうにご決定をいただいております。

三つ目でございますが、その他、中小・小規模企業の支援に関するところということで、中小企業、小規模事業者に向けたDXの推進ということで、中小企業、小規模事業者、それぞれの事業規模に合わせたセミナー等の開催により、DXの理解と活用の促進を深めていくというふうにご決定をいただきました。

私のほうからのご報告は以上でございます。ありがとうございました。

#### ○ 秋田四日市商工会議所商工振興部商工振興担当部長

では、続きまして、商工会議所の今後の取組ということで、手短にご説明させていただきます。資料6をご覧くださいませと思います。

まず最初に、地域経済における環境の変化というところでちょっと確認しておきたいんですけど、今現状はウイズコロナということで、新しい生活様式や自粛が続く状態にある



という認識でございます。地域経済における環境の変化としましては、経済活動が再開し出したと。また、いわゆる市民、県民の価値観、行動の変化としては、オンライン化の需要であるとか、あるいは密、接触を回避しよう、そういう思考が働いているということでございます。

これからですけれども、ポストコロナということで、ワクチン開発なんかによって従来のような社会活動が可能になる状態と考えますと、経済がまたそのタイミングで再成長していくと。そしてまた、ウイズコロナ期に生まれた新たな価値観とか行動の定着、こういったものが続くであろうという、そういう認識でございます。

その中で、地域の課題として何が今問題になっているかという我々の認識ですけれども、一つ目には、中小企業・小規模事業者の経営悪化の問題、雇用環境の悪化の問題、地域観光の停滞、それから最後に中心市街地の低迷と、この四つを大きな課題として我々今捉えております。

こうした中で、商工会議所の今後の取組といたしましては、こういう環境の変化がもたらした地域経済の課題というのが先ほど申し上げた四つですけれども、それらの改善を少しでも進めていこうということで、そういうような取組をしたいということでございます。

まず、中小企業・小規模事業者の経営悪化に関しましては、先ほど井田のほうからもご説明させていただきましたとおり、補助金、融資などによる資金繰り対策の支援であるとか、あるいは、国内外に向けた販路開拓の支援、それからデジタル化の推進、創業支援と、最後に産学連携などを通じた生産性向上による成長促進、こういったことを事業として取り組んでいくという方向でございます。

二つ目の雇用環境の悪化につきましては、これはウイズコロナ、ポストコロナに対応した新卒採用の支援ですね。例えば就職イベントなんかの再開が中心になってくると思っておりますけれども、こういったこと。それからウェブを活用した採用の支援、この2本を大きく今後の方向として考えております。

それから、三つ目に地域観光の停滞としていたしましては、最近、マイクロツーリズム、いわゆる地域密着型観光というものが言われるようになってきております。この中で、私どものほうで四日市ツアーというものを最近始めております。こういったものをより拡充させていく方向で事業を進めていこうと考えております。

二つ目にクルーズ船の寄港促進ですね。これもコロナ前まで徐々に四日市港へのクルーズ船の寄港が増えてきておりましたけれども、もう皆さんよくご存じのとおり、ダイヤモ

ンドプリンセスのような状況がございましたので、今は全くストップしております。またこの11月から日本船中心に再開してまいります。コロナ対策なんかをしっかりとった上で船社サイドといろいろな協議をしながらこういったものへの取組を徐々に始めていこうというふうに考えております。

それから、中心市街地の低迷につきましては、当所のほうで従来から行っておりますまちゼミ、それから、まちなかバルといった、いわゆる集客イベントを再開させていくということを考えております。二つ目に、また各種中心市街地活性化事業、いろんなお祭りをはじめ、取組されているものについて、再開と同時に我々のほうも協力支援ということで動いていこうと考えてございます。

最後に、その他地域経済の下支えということで、これも従来から当所のほうでやっておりますけれども、北勢バイパスであるとか東海環状自動車道、それから四日市港に関しては、霞ヶ浦地区北埠頭81号岸壁といったような、いわゆる産業を支えるインフラ整備、こういったものの促進に取り組んでいくということ。

それから、二つ目に四日市港を中心とした港まちづくりの推進ということで、これも当初の今年度、それから今年度以降、重点施策の一つとして取り組んでおるわけですが、最後の参考資料のほうをちょっとご覧いただければと思いますが、こちらは昨年度、四日市港の機能強化と港まちづくりを考える会という会議でまとめた四日市港の将来像と対応方針について書かれたものでございます。左下半分を見ていただきますと、霞ヶ浦地区については物流の機能を強化していきましょうということが書かれております。右下の黄色い枠線の中ですね。こちらについては四日市地区の港まちづくりを進めていこうということで、こういったことも地域経済に将来的には影響してくるということで、商工会議所としてはぜひ推進をしていきたいという考えでございますので、港まちづくりについても取り組んでいくという方向で決めております。

簡単ですが、私のほうから以上でございます。

## ○ 三木 隆委員長

ご説明いただき、ありがとうございました。

それでは、これから意見交換に入ります。

ご意見、ご質疑がございましたら、挙手の上、ご発言ください。

## ○ 樋口龍馬委員

ご説明ありがとうございました。本日はよろしくお願ひいたします。

ざっくりばらんにお尋ねしたいんですが、会議所会員の増減という点では、廃業等に伴う会員減が先行しているのか、今後の需要を考えての新規加入というのが進んでいるのか、その辺り、実数がもしお分かりであれば教えていただきたいと思います。

## ○ 山下四日市商工会議所理事兼事務局長

現状、目立った退会等はありません。ただ、商工会議所は年2回に分けて会費を請求してまして、そのタイミングが4月と11月の末です。ですから、危惧されるのはこの11月の請求時で、動きがあればそのときかなということで、現状は目立った動きはありません。

以上です。

## ○ 樋口龍馬委員

ありがとうございます。

また、先ほどのご説明をいただいた今後の取組についてという21分の18ページのところで、1の販路拡大の部分と、4の創業に関することなんですが、この辺りの支援、今後の取組というのもあるんですが、今年の中で創業者支援の取組なんかもあったかと思います。ここら辺の進捗というのは例年どおりだったのか、または減少していったのかというところはいかがですか。

## ○ 井田四日市商工会議所商工振興部長

まず、創業に関するところでございますけれども、当所のほうは、月1回、創業カフェという、まず創業者を集めさせていただいて、創業に関する知識の習得と、それから創業者同士の人材交流の場を設けさせていただいておりますが、やはりコロナ禍ではなかなかそういうことができずに、最近になってやっと開始をさせていただいたというところでございます。

もう一方、同じく創業で創業塾というのも開催をさせていただいております。これは短期集中的に創業に関する知識の習得と創業計画書なんかを作らせていただくというようなものでございますが、こちらにつきましては、リアルで参加いただいた方と、あとウェブを

使っての開催もさせていただいておりますので、それで実施もさせていただいたというところがございます。

もう一つ、販路拡大のところでございますね。こちらについては、今までは、それぞれそれぞれの展示会の出展のご支援を商工会議所ブースなんかを作ってご支援をさせていただいておったんですけれども、こちらも多く展示会が中止になってございます。少しこの資料にも入れさせていただいたんですけれども、メッセナゴヤなんかは今後ウェブでの開催というふうになっておりますので、こちらのご支援であるとか、それから、買いませ！売れ筋商品発掘市と言いまして、こちらはバイヤーのほうが着座型の展示会なんですけれども、こちらも人数を絞って実施されておりますのでこちらの支援であるとか、あと、通販なんかを通じた販売促進の支援を今現在させていただいております。

以上でございます。

#### ○ 樋口龍馬委員

創業カフェについては最近再開されたということなんですが、参加者の推移というのは、減少したのか、横ばいなのかとかはどんな感じですか。

#### ○ 井田四日市商工会議所商工振興部長

そもそも創業カフェ、そんなにたくさんの方ではなくて、10名程度の方がご参加いただけるような気軽に来ていただけるような、そういうようなイベントなんですけれども、大きく変更はないような状況でございます。

#### ○ 三木 隆委員長

他に。

#### ○ 中川雅晶委員

まず、今日はどうもありがとうございます。

資料の1のほうで、もちろんコロナ禍を受けて売上げがなかなか厳しい状況やったのが、如実に見えているのは何も否定するものではないんですが、人手不足というのは、コロナ前から大きな課題としてずっと横たわっている部分で、人材育成ですけれども、人手不足というか、いい人材がなかなか来てもらえないということなのか、人材を育成する企業

にそういうスキルがなかなか、もう厳しくなってきたのか、この辺の人材育成というところで、具体的な課題というのはどういったところなんですかね。

#### ○ 井田四日市商工会議所商工振興部長

人材育成の部分でございますが、そもそも三重の景況調査でございますが、小規模事業者様が対象となっている調査でございます。なので、なかなか自社ではしっかりとした教育ができないとか、そういうような回答かなということで、これも昨年度、そういう方に向けて、うちのほうで人材育成のセミナーなんかも合同で開催させていただいたというところでございます。

#### ○ 中川雅晶委員

ずっと後のほうの21分の18ページの今後の取組についてというところで、もちろん販路開拓とかはこうやって出していただいているんですが、5番目の働き方改革の推進に関すること、このコロナ禍を受けて様々な働き方改革、今までもずっとそのままだったものが、もうそのままにしておけない状態になってきて、新たな取組をしていかなければ生き残りができないというところで、働き方改革を推進するリモートやテレワークやいろんな形というところで、こういうことが地方にはチャンスがあるというのも一つあるのかなと思うのと同時に、この働き方改革、昨日もNHKで、ある大手の企業——KDDIでしたか——が雇用の形態自体を変えていくという、ジョブ型に転換をしていくという、今までの終身雇用はほぼ崩れかけている中において、そういったメンバーシップ型の雇用から、明確に仕事を提示して、その成果において双方が合意をした上で報酬も働き方も決めていくというジョブ型の雇用に大きく転換していくという中の取材をされているのが非常に強烈に感じたんですけども、中小企業とはいえ、これからの働き方改革という部分において、商工会議所としてはどういうふうな形で、四日市市もこの大きな流れの中で適用せざるを得ない状況なのか、いやいや、あれは大企業の話で、まだまだ中小企業はなかなか厳しい状況ですよとかというのか、ないしは、新たに四日市を働き方改革に基づいた働く地として選ばれるような戦略的なものがあるのかなのか、その辺ぜひちょっとご教示いただければなと思うんですが。

#### ○ 須藤四日市商工会議所専務理事

大変難しい課題のご質問をいただいたなというふうに思っております。

私も個人的には、マスコミ等でテレワークだとか様々な在宅勤務だとかということで盛んに報道されておるわけですが、まず、この地域は地方の産業都市でそのような可能性とか、その辺はなかなか見だしにくいなというふうに思っておるのが現状でございます。

ただ、このようにコロナ禍を経て、社会の商習慣と申しますか経済ニーズと申しますか、そういうものは今後そのような方向に流れていくんだろなというふうに思っております。この地域がすぐにそれに対応できるかどうかということは別にして、いや応もなくそういうことに取り組んでいかないと経済活動から取り残されてしまうんだろなというふうなところを危惧しております。

地域の中小企業さん、小規模事業者さんにとっては、そのようなことをすぐに取り組むというのが非常に難しく、そういう人材も不足しております。デジタルトランスフォーメーション導入と言ったところで、そういう事業者さんは見当たらんというようなところもございまして。そういうことを踏まえて、ポストコロナ、コロナの後はそういう環境整備というのが我々経済団体としての役割かなというところで、今後の取組というところにも掲げさせていただいております。今後、そういうことでのセミナー、相談会、人材派遣というようなことについて、協力的に推進していきたいというふうに考えておるところでございます。

以上でございます。

## ○ 中川雅晶委員

ありがとうございます。

新たな働き方、テレワークやそういうことができる職種、企業と、エッセンシャルワーカーを中心として、なかなかそういうことができない業種、企業というものもあると思います。それは昨日の番組でも、ちゃんと立て分けて取材をされていたのかなと思います。しかし、何か大きいものを突きつけられたような、何となく後味重い感じに見えたなというふうに私は感じておるんですけど、一つ、この三重県も、命と経済の両立を目指す三重モデルというのを打ち出して、先ほどおっしゃったデジタルトランスフォーメーションの推進であったりとか、三重の強みをもっと生かそうとか、一極集中のリスクの軽減と地方創生を推進していこうというところで、四日市市も地方創生という文言は、あらゆるところ

に文言はされていますけど、本気になって地方創生する気があるのかって言われると、なかなかそういうふうな施策展開にはなっていないんじゃないかなって、私は率直にそう思いますし、本気度がなかなか足りないというところもあります。また、どうしても、どちらかというところ規制の対象としていた企業であったりとか団体であったりとかというのを、今度はパートナーシップとして地方創生をしていくという視点に大きく変えていかなければ、なかなか乗り越えられない難しい局面に来てるのかなと。であれば、行政もやはり、どういう形で産業振興とかというところを考えていくのかという非常に大きな曲がり角に来ているんじゃないかなと。今までどおりの踏襲型の言葉だけの産業振興とか地方創生とか、そういうことだけでは行政も許されないんじゃないかなと思います。本当に主に中小企業とかの現場に立たれて、行政に求めるものというのは、今後、特にアフターコロナにおいて、行政に求められる真の支援とかパートナーシップとか、そういうのはどういうものかというのを少し具体的に教えていただければありがたいんですが。

#### ○ 須藤四日市商工会議所専務理事

こちらもなかなか見だしにくい課題ではございます。

我々、常に地域の産業振興をお願いしたいということで、企業の集積、企業誘致というようなこともお願いもしたりもしてきておりましたが、これからはそのような状況をもなかなか見だしにくいのかなというふうに思っております。その一方で、東京一極集中からの是正ということが、かなりこれから進められてくるのかなというふうに思っております。そういうふうなものの受皿になれるのかなれないのかというところが今後の地域の発展に大きく寄与するところかなというふうに思っております。この地域がそういう東京から離れてきてこちらで起業する、創業するという地域になれるのかなれないのかが四日市の今後の将来に大きく関わってくるのかなというふうに思っております。

そういう意味で、どのような地域が選択されるのかなというふうに考えますと、一つは、例えば自然環境が豊かな中山間地で事業されるというような選択もあろうかと思いますが、もう一つは、やはり利便性のよい、いろんなサービスも充実しておる地方都市が受皿の一つになれるのかなと。その辺で、四日市の中心市街地なんかそういう東京一極集中を避けた新しい都市型産業というものが立地していただけると、非常に厚みのある町になっていくのかな、雇用も十分確保していただけるのかなというふうに思っております、そのような取組をぜひお願いしたいというふうに思っております。

以上でございます。

○ 三木 隆委員長

他に。

○ 日置記平委員

私からは、この表をいただきましたので、まず、今回いろいろと早期から取り組んでいただいています新型コロナウイルス感染拡大に係る補助金申請支援状況について、ちょっとお尋ねしたいんですね。これ、項目が1から5までありますね。まず、商工会議所さん側として、この1から5までの間で一番ご苦労なさったところほどの項目になろうかなということが一つと、今度は借入れを求める企業側の皆さんが思われたのはどの項目になるのかなというのをちょっと教えていただきたいと思います。

○ 井田四日市商工会議所商工振興部長

まず、それぞれの補助金の対象が小規模事業者様、または中小企業まで枠が広がったり、また、使える事業も、こちらのほうは販売促進でないと駄目だけれども、こちらは設備投資もある程度いける。また、企業の負担も、全額補助できるとか、3分の1は自己負担しなければならないとか、それぞれにたくさんの条件があるものですから、どれが一番難しかったかというのは特にはございません。それぞれ、企業さんが作っていただいた事業計画を我々の手でブラッシュアップをさせていただくというようなところでございますので、事業者様にしっかりした計画があれば、それに沿って書き方なんかを少しアドバイスさせていただくというようなところでございます。

もう一つのご質問は、ご融資……。

○ 日置記平委員

借りる側のほうが悩んで難易度が高いなと皆さんが思われたところは、この項目のどの辺になるかなということです。

○ 井田四日市商工会議所商工振興部長

お借入れされる事業者様は大体運転資金に困られているというところが多うございます



ので、例えば採択されても自己資金がある部分については自己資金の部分、どうしても補助金は事業が終わってから入ってくるものですから、その間の運転資金をどうするかというところが少し課題かなというふうには思っておりますが。

## ○ 日置記平委員

いろいろと、私の場合は特にものづくりの、いわゆる自動車とか電気とか造船だとか、いろんな類の輸送機器だとかと関係が深いんですけど、特にこの世界のほうはコロナによって、ひどいところはもう3分の1の生産減というところもありまして、いろんな悩みを聞かされています。

その中で1番借入りに苦労されているのは小規模のところですね。ここは申請するのに難しいと。それから、申請するのは難しいから、司法書士とか専門屋さんに頼むのが一つかなと。つまり、小規模においては、この借入れの項目がいろいろありながら、なかなかそこにチャレンジするのは難しいという話を聞かされていますので、当然仲介に立つ商工会議所さんとしては、その辺のところは当然、こんな難しいものがあつたんやと言われているところもあろうかと思うので、ちょっとそれをお聞きしたかったんですね。だから、借りる側としては、簡単に手続ができて、国が決めた制度を利用したいというのはもう希望でございますので、そんなことを一番肌で感じてみえるのではないかなと。今後もこういうことがいろいろ起きてくると思いますので、商工会議所の会員さん、あるいは会員外の皆さんもおりますから、そんなところで、これからの将来の方向性については十分認識をしておられて、次の対策を打たれていると思いますので、そんなことをちょっと参考までにお聞きしたかったんです。

このグラフのほうで、3月末の前年度の生産の状況がこのグラフで少し分かってくるんですが、もう10月は終わろうとしています、この分野の中で経営に行き詰まったという業界はどの業界が一番多いとつかんでみえますか。

## ○ 須藤四日市商工会議所専務理事

やはり経営状況は非常に厳しく、かつ、改善の見通しが立ちにくいというのは、飲食、観光系の事業者さんであるようでございます。

市内中心市街地の中では小規模な事業者さんが多くございますので、そういうところではチェーン店なんかも店を閉められる、四日市店は閉められるとか、そういうところもぼ

ちぼち出てみえておりますので、飲食が一番厳しいのかなと。それから、ホテル、観光系でございます。ホテルにつきましては、四日市市の事業者さんは比較的規模が大きいというか、大手さん、上場企業のホテルさんが多くございますので、経営的には持ちこたえていただいておりますが、利用状況からすると、対前年度比、まだまだ50%以上の減ということが続いておみえです、その辺りは非常に厳しいのかなというふうに思っております。

#### ○ 日置記平委員

早くから商工組合中央金庫、あるいは政府の日本政策金融公庫辺りは、市中金融もそうですが、無利子無担保というので随分宣伝はされましたが、この辺は随分企業の皆さん方が大歓迎で、新しい方向性に向かうことができたのではないかなというふうに思っていますが、この辺のところで何か感じ取られているところがあればちょっと聞かせていただきたいなと思います。

#### ○ 須藤四日市商工会議所専務理事

政府系の融資、非常に条件も緩く、多く供給されておるということでございます。

そのおかげで倒産というようなところに至るケースというのが今のところ、件数的には少ないという状況でございます、そういう形をつないでいただいております、そういうところで、事業者のほうは事業を継続できておるということでございますが、その資金は、いずれは返さなならんというような資金でございますし、いつまでもこのような状況が続けば、やはり資金ショートしてくるということは明らかですので、その辺、これから少し影響は顕著になってくるおそれはあるというふうに考えてございます。

#### ○ 日置記平委員

そんなところから商工会議所さんは経営支援課というのが頑張ってみえますので、こんなときこそどうぞ一つ、特に小規模事業者の皆さんに的確な指導をしてあげていただきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。ありがとうございます。

#### ○ 三木 隆委員長

他に。

### ○ 笹井絹予副委員長

今回ちょっとコロナ禍で展示会とかの開催を中止とかそういうのが記載されているんですけど、展示会なんかは結構今までですと対面が多かったと思うんですけど、やはり実施期間が長いということで、今後はオンライン化のほうにシフトしていくというんですけど、もしオンライン化のほうにシフトしていく場合の実施期間というのは、今までと変わらないのでしょうか。

### ○ 井田四日市商工会議所商工振興部長

それぞれの展示会の規定によって変わるとは思うんですけども、メッセナゴヤとかですと、むしろ長くなっていると思います。オンラインですので長く面談をするとか、企業同士がマッチングする機会を増やしていくという、そういう状況だと思います。

### ○ 樋口龍馬委員

委員のほうから特段のことがなければ、意見交換ですので、ぜひ商工会議所さんのほうからこういうものがあると助かるよとかというのも伺いながら、進めていただくとありがたいなと思うんですが、皆さんのほうで、政府の支援だとか県の支援、四日市の支援、ある中で、十分に会員の皆様のご期待に沿えなかった部分とかもあると思うんですね。こういう政策があるとよかったのになとか、これからこういう政策があるとありがたいなというものがあればぜひ教えていただきたいなと思うんですが。特になければいいです。

### ○ 須藤四日市商工会議所専務理事

こんなことがあったらいいなということではないんですけども、政府のほうは、給付金の手続きをさせてもらっています。こちらのほうは手続きがかなり難しく、様々な混乱もございました。持続化給付金の窓口は、国が民間の事業者に委託して私どもの商工会議所の会議室でやるというようなことでやっていただいております。それから、雇用調整助成金のほうはハローワークのほうで取り扱っていただいております。ここで今回ご紹介した持続化補助金等は私どもが窓口になってございます。それから、融資のほうは融資のほうで金融機関なりが窓口になっていただいております。それから、日本政策金融公庫のほうも窓口になっていただいております。

私ども、経営指導しておるといところで、各事業者さんに寄り添ってやっているというようなことであるんですが、その持っていき先は私どもであり市であり、あるいは日本政策公庫でありと、あるいは国でありといことで、それぞれ別々でございます。この辺が事業者にとってみれば、パッケージでご支援できるというような仕組みになっていくと非常に、もう少しフットワーク軽くご支援できるのかなといところはございます。

あとは、年明け以降、給付金の効果も切れてまいります。この辺で融資のほうはそれほどじゃぶじゃぶと借りると返す額がどんどん膨らんでいくばかりというところもございます。この辺で全体的にどう支援できていくのかなとい辺りは、さらに少し簡便な給付制度みたいなものも、売上げが改善せんようなどころにはさらに何か給付できるようなものが要るのか、もうその辺は諦めていくのかとい辺りは、少しこの年末ぐらいからそういう時期が来るのかなといふうなことで、心配しているところがございます。

#### ○ 太田紀子委員

さきにも説明いただきましたけど、現状的に退会は少ない、まだまだという段階で、11月になったらもしかしたらといあれを聞いていると、もちろん補助金とかそういうお金が必要ということも分かるんですけども、どのぐらいまでとい全くめどが今つかない状態で、退会されるのもやむを得なしなのか、それとも、何らかの手だてを打てば退会せずとい手だてが打てるのかって、そういう指導といか、今後の見通しとしてどのように考えてみえますか。確かに借りたものは返さないと駄目で、50万円ぐらいの補助金だったらそんなに何か月も続かないよねとい考え方で終わってしまうのか。あと、これを見ている物すごく採択率といか、度合いもパーセントも厳しい部分があったり、どんどん数が、第何次と期数を重ねるごとに増えていっているような状況を見ると、もう徐々に徐々に資金ショートしつつある企業が増えていっているのかなといことも読み取れるもので、そういった部分、どのようにお考えなのか。

#### ○ 井田四日市商工会議所商工振興部長

事業者様がいわゆる廃業されるという部分でございますが、これについては、補助金等で様々な販路開拓のご支援をさせていただいておりますし、各事業者様もそれぞれ状況に応じた手だては打たれていると思います。

その中で、どうしてもその事業者様のご事情に応じて廃業せざるを得ない、そういう場

合は、それは仕方がない部分かなとは思いますが。ただ一方で、最近、この1か月ぐらいですけれども、創業したいという方が徐々にですが増えてきております。一部リストラ型というのものもあるのかもしれませんが、今、新たに創業したいというご相談がこの1か月ぐらいで出てきているのかなというのがありますので、例えばそこに対しての何かしらのご支援をいただくと大変ありがたいかなというふうに思います。

以上でございます。

#### ○ 太田紀子委員

創業したいという方は、業種も様々でしょうけれども、一定の前提としてお金を出すに当たっては、例えば何かの補助するに当たっては、先々の将来性とかって問われる部分、このコロナ禍においてどうなんだとかという部分も物すごくリスクが大きいと思うんですよ。創業される方はリスクを分かってみえて創業されると思うんですけれども、やはりそういった場合、今の50万円程度とか、そういうのではなかなか継続もできないと思うもので、そういった部分で、どのぐらいの資金の貸出しとか、例えば借りの場合、長期の20年で無利子とかという、そういう考え方をしていたほうが良いということでしょうか。

#### ○ 井田四日市商工会議所商工振興部長

それは、毎月のキャッシュアウトが低くなれば低くなるほど事業者様は経営上の運転資金が楽になりますので、それはそれで助かると思います。ただ、現状、市の独立開業資金は設備資金、運転資金ともに10年という長期の貸出し期間でございますので、これはもうこれだけあげていただければ十分ではないかなというふうには個人的には思います。創業者の方につきましても、なるべく、いわゆる貸出しを抑えるような形で創業できないか考えていただくよう、我々のほうもアドバイスをさせていただいておるところでございますので、長ければ長いほどいいんですけど、あまり長くてもというところもありますので、十分かなというふうには個人的に思っております。

以上でございます。

#### ○ 太田紀子委員

ありがとうございます。

せっかく創業してもらう方がすぐやめちゃうのではなく、長期で四日市に根づいていた

だくような、そういう企業が生まれればと思っております。ありがとうございました。

○ 三木 隆委員長

ここで約1時間経過しましたので、10分間の休憩を取りたいと思います。再開は40分  
からお願いします。

14:29 休憩

---

14:39 再開

○ 三木 隆委員長

では、皆さんおそろいですので、再開いたしたいと思います。

インターネット、よろしくお願いします。

先ほどに引き続きまして、ご意見、ご質疑がありましたら。

○ 日置記平委員

先ほど創業の話が出ましたので、ちょっと参考まで教えてください。

最近、各方面で女性の社会進出が出てまいります。大学を卒業して新しい事業を始める  
女性の卒業生もいるというふうなことも伝わってまいります。四日市商工会議所さん  
としても、今現在の会員さんの中で女性経営者って何者ぐらいありますか。正確でなくて  
いいです。10者とか50者とか。

○ 井田四日市商工会議所商工振興部長

小規模に創業される方、飲食とかサロンをやられるとかという方は女性が結構多いので、  
そういう経営者でしたら5%、10%ぐらいでしょうが、本当の会社経営をしてみえるとい  
う方は1%もないかなという、そんな感じですね。

○ 日置記平委員

何代か続く中で、最近、事業の後継者というのがテーマでいろんな記事に載ってくるこ  
とがあります。三代目の経営者に男性の子供さんがいなくて、女性の子供さんにバトンタ

ッチすると。これも女性経営者になってきますけど、こういう形は宿命的なんですが、新しく女性の方が脱サラを目指してこんな事業にチャレンジしようということでやっておられる方がどれぐらいあるのかなと、少し関心があったのでお尋ねしたんですが。

○ 井田四日市商工会議所商工振興部長

ここ最近ですけれども、創業者のご相談をいただく約半分は女性が、それこそネイルであるとか飲食店とか、自宅で少しお菓子を作ったりとか、そういうご相談なんかもあつたりしますので、約半分ぐらいは女性創業者かなと思います。事実、うちの創業カフェ、創業塾も半数は女性の方がご参加いただいているという、そういう状況でございます。

○ 日置記平委員

ありがとうございます。

世の中がそういう動きにかなり変わってきていますので、経営支援課の方も、商工会議所さんは女性部会もありますから、女性部会に入ってみえる方が必ず女性オーナーとは限らないので、後継者の方もみえるでしょうし、そんなことで女性の方でやってみたいという人がそこそこにいるんじゃないかなということを思いますときに、女性の創業者に限った特別の独立支援というか、そういうのはあるのでしょうか。

○ 井田四日市商工会議所商工振興部長

例えば日本政策公庫ですと、女性、若者、シニアという形で特別の貸付けがありますので、金利が少し安くなるような、そんな貸付けもありますし、四日市市さんは女性の起業塾なんかもされてみえるので、女性に対して起業を推進するような仕組みを講じていただいていると思っております。

○ 日置記平委員

ありがとうございます。

今後とも一つどうか、そういった方面への指導も併せてよろしく申し上げます。

○ 三木 隆委員長

他にご意見はございますか。

○ 中川雅晶委員

雇用調整助成金なんですけれども、なかなか面倒くさかったりとか、事業者の方がやりたがらなくて安易に首を切ってしまうとか、それは極端ですけど、なかなか、本来ならば対象になるのにちゅうちょしたりとか実行しないとかというケースとかというのは散見されますか。それともさほどないのか、見えていないのか。

○ 井田四日市商工会議所商工振興部長

ご案内のとおり、初めは確かにかなり煩雑だったんですけれども、制度も随分、途中途中から簡素化されておりますので、全部はつかんでおりませんが、そんなに影響は大きくなかったのではないかなというふうには思っております。

○ 中川雅晶委員

例えば社労士さんとか行政書士さんとかも支援するという方向とかというのも見受けられたことがあるんですけど、そんな必要はなく、今はやろうと思えば、労働者からもやろうと思えばできるようになっていますので、そういう部分で、そんなに問題になるということはないということですね。

ありがとうございます。

いいですか。続けて。

それから、雇用もウェブを活用した採用支援とかというところで、去年の例えば就職活動のときも、コロナ前もウェブでやっているような企業はあったんですけど、なかなか学生のほうもそういうところはうさんくさいような感じがして、やっぱり行って面接をしたりとか企業説明会とかということが王道みたいな感じでしたけど、今はがらっと環境が変わったような、ウェブでの採用活動なんですけれども、具体的に支援というのはどういうことになるんですかね。どういうところがウェブでの就職活動の課題で、どういうところに支援をすればいいんですかね。

○ 秋田四日市商工会議所商工振興部商工振興担当部長

一つは、これは従来からの課題でありますけれども、やっぱりウェブを使って地元企業の情報をより広く発信していくという、この必要性はまだまだありますので、ここを商工



会議所が立ち上げている新卒向けのホームページなんかも併せて活用してお手伝いするということですね。

もう一つは、今までいわゆる合同就職説明会というものが学生と企業のいわゆるお見合いの場として代表的な場所ではあったんですけど、昨今、大分就職活動、採用活動の手法というのが多様化してまいりまして、先ほど委員がおっしゃられたようにウェブ面接のようなものがコロナ禍では大分増えてきたと。とはいえ、やっぱりリアルを求める声というのも非常にたくさん地元企業からはあります。ですので、そういう意味でその方法、手段を少し増やすということで、我々のほうでは、就職採用時期の後半に、なかなか就職しにくい、まだできていない、思うように進まなかった学生に向けて、個別に企業とマッチングをさせるような仕組みをウェブ上でやるということで今準備をしていたりします。ということで、多様化する採用就職活動の手段、ここをお手伝いするというのが、今のところ我々の大きな役割かなと思っています。

#### ○ 中川雅晶委員

あと、例えば就職活動をする学生のほうから見ると、ウェブでそうやって就活ができるということは、地方の大学の学生にとっては非常に助かるというか、交通費もかかりませんし宿泊費もかかりませんし、多くの企業と接触することが可能になるのでと思うんですけど、逆に、企業側もちゃんとウェブでの採用のような環境をちゃんと整備しておかなければ、そもそも選んでもらえないというところがあるので、最低限ちゃんとしたものをやっぱり整えなければ信頼度は上がらないというところの話かなと思うんですけど、そういうところにもどんどん支援をしていきますよと。お互いに安心して、やっぱりウェブの採用活動が双方にとってウィン・ウィンになるような形での採用の環境を整えていかなきゃいけないのかなと思うのですが、そういうところに、例えば商工会議所なり市や県なりとかというところのバックアップがあれば、安心して学生もというところもあるのかなと思うんですけど。そういうところ、ぜひ、やはりお力になっていただければなというふうに思います。

それと、もう一つ、事業継承は、特にこういうコロナ禍になってきて、なかなか先行きの見通しが立たなくなってきた、この機会にもう事業をやめようかというところもあるでしょうし、事業としてはまだまだ継続性があるんですけど後継者の問題とかがあって事業継承を断念するとかという、この事業継承についての何かいろんな課題とかというのは

うでしょうかね。

#### ○ 井田四日市商工会議所商工振興部長

事業承継については本当に様々な課題がありますので、当所といたしましては、今、三重県産業支援センターのほうに事業引継ぎ支援センターというのがありますので、そちらと連携して事業承継に関する様々な対応をさせていただきたいというふうに体制を整えておるところでございます。

#### ○ 中川雅晶委員

そこへおつなぎすれば、いろんな税制の部分とかもサポートを受けながら事業継承できるということですね。分かりました。

あと、先日、友人のマーケティングを研究している学者の話聞いていたら、やっぱり今後、マーケティング自体も一昔前のマーケティングはもう通用しない時代になってきたということで、本当になかなかそこも難しい。しかし、既存のいろんな商品であったりとかサービスであったりとかも、それが全く駄目というわけではなくて、少しいろんな角度を変えてみると、そこにクリエイティブな市場を作るということも可能であると。となれば、やっぱり各地方においても、そういうマーケティングの専門的なサポートをするような方も、やっぱり中小企業にとっては大切じゃないかなと。従来の言葉だけのマーケティングではなくて、本当にいろんな知恵のあるマーケティング、そういうような人材を確保していくとかというのも地方創生の重要なキーワードじゃないかなというふうに話をいただいたんですけども、商工会議所で考えるマーケティング、ないしはそういった人材とか、そういうところへのサポートとかって、その辺の可能性としてはどうなんでしょうかね。現在もやっておられるとか。

#### ○ 井田四日市商工会議所商工振興部長

マーケティングに限らず、専門的な知識を有するような支援については、まず三重県のほうでそういうような専門家派遣の制度がございます。または、ミラサポという制度がありまして、これは国の制度なんですけれども、こちらで専門家のほうをお呼びして、無料で小規模事業者さんとか中小企業さんはアドバイスを受けることができるという、そういう制度を使ってご支援をさせていただいておるところでございます。

○ 中川雅晶委員

そういった好事例とかはありますか。実際に例えば三重県の専門家派遣やミラサポの制度を使って、こういうような事業で市場を拡大したとか市場を創造したとか、また、企業のマッチングでこういった商品を発信したとか、そういうような事例はありますか。

○ 井田四日市商工会議所商工振興部長

私をご支援をさせている事業者さんで、ちょっと事業所名というか、商品名を出しちゃっていいのかどうか分からないんですけど、いわゆるシイタケなんかを作っているところがあるんですけども、専門家を入れて、しいたけのジャーキーみたいなものを作らせていただいて、それで今新たな販路を開拓している事業者さんとかはございます。

○ 中川雅晶委員

そういうようなどんどん多く成功事例を作っていくということも、地方創生であったりとか活性化に非常に有効じゃないかなと思いますし、またその辺をサポートいただきたいなと思います。

以上です。

○ 三木 隆委員長

他に。

○ 樋口龍馬委員

この前、技術系派遣の派遣業をやっている社長さんとか、人材のマッチング関係をやってみえる社長さんとかと意見交換を少し持ちまして話をしていく中で、先ほど中川委員が言われたみたいな、これからジョブ型雇用というものが出てくる中で、ジョブ型雇用は日本ではなかなか生き残れないんじゃないかという話題になっていって、そうすると、これから必要とされる支援というのは、ジョブ型の企業人、一人親方が増えてくることが見込まれるんじゃないかというふうにその社長さんたちは言われていたんですね。その辺りというのは、皆さん、可能性としてはどんなふうで考えてみえますか。

○ 須藤四日市商工会議所専務理事

すみません。想定したことはございません。申し訳ないです。

○ 三木 隆委員長

他に。

○ 日置記平委員

何かいろんなことを尋ねてすみません。

古くからいろんな形で四日市市に問題を投げかけていますが、これまで四日市の産業について、商工会議所さんのスタッフの皆さんと四日市市の政策推進部やら商工農水部やらとの意見交換というのはあったんでしょうか、なかったんでしょうか。

○ 須藤四日市商工会議所専務理事

市行政と商工会議所、ある意味、表裏一体の活動をさせていただいておるというふうに私自身は思っております。我々、産業政策の実施部隊ということで、市のほうは市のほうで支援策を、我々のほうからも要請もしておりますし、それに対するいろんな施策も打っていただいておりますし、密にさせていただいているのかなというふうに私個人的には思っております。

○ 日置記平委員

当委員会は、そういったことがメインテーマになっていますので、私は、商工会議所さんと四日市市とのそういう未来の産業に対する意見の交流会というのは極めて重要やと思っています。国に向けていろんな形の企業誘致戦略とか、あるいは県と連動して意見交換だとかというのは積極的にやるべきだとは思っていますので、ただ、そういったことがこの委員会にはあまり声が入ってきていないというところの一抹の不安を感じています。そんなことで、せっかくの機会なのでお尋ねをしてみました。いろんなことをご無理をお願いしていくと思えますけど、ご無理をお願いしていくぐらいの気迫がなければいけないんですが、少し不安も持っていますので、よろしくをお願いします。

○ 須藤四日市商工会議所専務理事

せっかくの場ですので、最近考えていることで市のほうにお願いしたいなと思っておることの一つに、四日市市の物産を広く紹介できるような場所がいいところに欲しいなというのが最近の思いでございまして、じばさん三重は少し場所的にもあまりよくないですし、物産といっても、もっといろんな広く、農産物なんかも含めて、そのようなものもやっぱり広く市外から来た人にも販路拡大できるようなところが四日市にはないなというふうにかつてから思っております、そういう場所をどこかで開発をいただくと非常に産業振興にもつながるのかなというふうに、近年、特に思いが強くなってきております。またよろしくご支援いただきますように。

### ○ 日置記平委員

数日前に紀北町でしたかね、新聞に載っていましたね。だから、やっぱり三重県を取ってみると、南のほうほどそういったことに一生懸命にならないと産業の位置がやっぱり遅れていくということで、町のリーダーがああいうことを考えてくれているんだと思うんですね。知事も東京でいろいろ、東京のテナントを利用しながら真剣にやっていますので、これはちょうどいい機会に、うちの委員長、そういうことはめっちゃ積極的ですので、彼は実行してくれると思いますよ。期待してください。

### ○ 三木 隆委員長

他によろしいですか。

### ○ 中川雅晶委員

最後にすみません。

やっぱり心配になるのが、いろいろいただいたデータからも飲食店は非常に厳しいのかなと思いますし、この冬も経済と予防との両立と言いつつも厳しい状況が続くのかなって思うと、そういうところに対して新たな、例えば従来の宴会がなかなか駄目であれば、それを代替するような提案であったりとか、また、飛沫とか、それから、感染を予防するような空調のシステムであったりとか殺菌機能のついた機器を設備投資するとか、感染予防の質を極めて上げていくような設備投資に対する支援とか、そういうこともやっぱり考えていかなきゃいけないし、また、その店舗の在り方も、大分分かってきた感染予防の店舗の論理的な配置の仕方、ある程度の確保、どれぐらいの許容の人を入れられるかとか、

そういうところの研究であったりとか、その辺、飲食店の支援に対するお知恵とかというのはどうですかね。このままでいるとなかなか、我慢してください、我慢してくださいと言っても先行きは見えなくなってくるというのは非常に資金ショート、一番しやすくなってくるのかなって思うと、その辺に知恵をいただければありがたいかなと。

#### ○ 須藤四日市商工会議所専務理事

先般も諏訪商店街の皆さんとキャンペーンを、私ども、させていただいて、コロナに負けない商店街、お客さん、来てくださいということで、そういう活動をさせていただいたんですが、特に商店街のお店は、県のコロナに対する飲食店の基準というのを大変満たしにくい状況でございます。ビルの中で換気も悪い、席数も多くなく、まばらにしてしまうとほとんど入れないということで、私どもの店は安全ですよというふうに宣言を打てない、無責任にそんなシールは貼れないというようなお店が大変多うございまして、そういう面では郊外のお店のほうが早く復活していると、中心部の店はなかなか通常営業しづらいということの状況でございます。

今般、これはまた県ですが、県のほうのコロナ対策の設備の補助金の募集が始まりました。こちらのほうはかなり、設備投資に対する4分の3の補助金、上限500万円まで補助も出るというような制度でございます。それでそういう空調だとか換気設備とかというようなことも対応できるということもございます。ただ、そのうちの4分の1は自己資金で対応せんらんとということもございまして厳しい部分もあるんですけども、そのようなことも活用して。それから、従来型のコロナ対応型の持続化給付金というので、設備改良なんかも補助制度はございましたけど、できるだけそういうことも活用していただいて、お客さんを戻していただけるように取り組んでまいりたいというふうに思っております。

#### ○ 中川雅晶委員

先ほどのいろんな設備の県の事業、4分の1は自己負担なので、こういうところに少し市とかも支援があればハードルが下がってくるということもあるのかなと思いますし、全ての条件になかなか当てはまらないというところの厳しさはあるかもしれないですけど、でも、そういうところを突破口にして経営というか、売上げの改善ができるのであれば、そういうところに投資をしていくということも重要かなというふうにお伺いさせていただ

きました。またぜひお知恵をいただきたいなと思います。ありがとうございます。

○ 三木 隆委員長

本件につきましてはこの程度といたします。

○ 日置記平委員

須藤専務理事がせっかく玉を投げていただいたので、これは道の駅というのか、サテライトなのかテラスなのか分かりませんが、恐らく商工会議所さんはそれなりの案をお持ちだと思うんですよ。僕は委員長にびゅっと投げたけど、これ、そのまま受けるだけでなく玉を返さないかんので、早速、政策推進部長やら商工農水部長やら市長も入れて、四日市市で、これを一つ軌道に乗せようという提案をしておいてください。それができると、今度、トップ同士が話し合っとうしようかというところに行くわけですよ。このまま消えてさせたらあかんで、これは。絶対誕生させようと、恐らく専務理事が言われるのやから、かなりの勢いを持ってみえると私は思う。それならそれに答えなあかん。ぜひ、委員長、一つもとに早速うちの市役所のメンバーで立ち上げれば、これは世の中、動きますよ。やらなあかんで、というのが、私の考えです。よろしく頼みます。ありがとう。

○ 三木 隆委員長

分かりました。

○ 須藤四日市商工会議所専務理事

ありがとうございます。

道の駅というお話も出ましたが、それと含めて、このペーパーの一番後ろにつけております。これ、海のほうでございますが、これは産業生活常任委員会の所管外にはなろうかと思うんですが、海のほうの開発も私どもの大きなテーマにしてございます。こっちには海の駅ができたらいいなというふうな思いでおりますので、またそちらのほうも応援いただけたらなというふうに思っております。ありがとうございます。

○ 三木 隆委員長

ありがとうございました。

本件につきましてはこの程度といたします。

商工会議所様におかれましては、ご多忙のところ、本市議会産業生活常任委員会に参考人としてご出席いただき、貴重なご意見をいただきました。

本日は、誠にありがとうございました。

委員の皆様は少し残ってください。

残っていただいたのは、行政視察と管内視察の部分なんですけど、よその委員会を見ておっても県内、市内というのを中心に日帰りだというのが多いんですが、何かいい、どこか、考えを持っておる人、おられますか。どうでしょうか。

(発言する者あり)

○ 三木 隆委員長

これはちょっとラストチャンスみたいな感じで、タイミング的には。

○ 小川政人委員

さっき日置委員が言っておった紀北町か何や、あれを見に行こうや。

○ 日置記平委員

それは密にならへんけどな、平日に行ければ。

○ 樋口龍馬委員

御浜町の道の駅にマリオットホテルが来るじゃないですか。ただ、それが所管に当たるのか。

○ 小川政人委員

所管やろう、それは。物産の展示場とか言うと。

○ 三木 隆委員長

似たような場所なんですか、道の駅。



○ 樋口龍馬委員

道の駅の中にマリオットホテルを建てるんですよ。

○ 日置記平委員

その周辺にもそういう大阪からデベロッパーが来て、ちょっとしたホテルを建てるというのがあるんですわ、格安で。もうそれはできているところもある。

○ 三木 隆委員長

事務局、日程的にはどうなるんですか。

○ 伊藤議会事務局主事

日程はまだちょっと、おさえさせていただいてないんですけども、やるとするなら1月辺り、今からセッティングさせていただくと考えると、もしくは日程が合えば少し前でやれるかもしれないです

○ 三木 隆委員長

向こうは南のほうやで暖かいよね。

また雪の降るようなところへ行くと酷いことになるので

そうしたら、一遍それで正副のほうで考えますわ。それでまた日程をお知らせして、皆さんの都合を聞いて、また、参加可能人数を確認しながら、その道の駅という方向で考えましょう。

管内視察については、もう行政視察1本で行きますか。

それならそういうことで、今日は大変ご苦勞さまでございました。以上で終わります。

15：10閉議